

Japanese Patent Office
Patent Laying-Open Gazette

Patent Laying-Open No. 2002-32198
Date of Laying-Open: January 31, 2002
International Class(es): G06F 3/06

(4 pages in all)

Title of the Invention: ASSEMBLED-TYPE BACKUP DEVICE
 USING HARD DISK DRIVE

Patent Appln. No. 2000-216474
Filing Date: July 17, 2000
Inventor(s): Shinichiro OGAMI

Applicant(s): NEC Corporation

Comments on Japanese Patent Laying-Open No. 2002-32198

The personal computer is under control of an operating system (OS) so that data transfer is conducted smoothly between respective disc drive apparatuses, as well between each disc drive apparatus and a hard disc drive. In a personal computer equipped with a plurality of disc drives, one of the plurality of disc drive apparatuses is set as the master, functioning as the main disc drive apparatus, and the remaining disc drive apparatuses are set as slaves, functioning as sub-disc drive apparatuses for usage.

Reflecting upgrade of the OS version and the like, the master/slave setting of the disc drive apparatus is changed to carry out smoothly data transfer between each disc drive apparatus and a hard disc drive, as well as between respective disc drive apparatuses. This changeover is effected by a switch.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-32198
(P2002-32198A)

(43)公開日 平成14年1月31日(2002.1.31)

(51)Int.Cl.⁷
G 0 6 F 3/06

識別記号
3 0 4

F I
G 0 6 F 3/06

テーマコード(参考)

3 0 4 F 5 B 0 6 5

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願2000-216474(P2000-216474)

(22)出願日 平成12年7月17日(2000.7.17)

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 大上 真一郎

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

(74)代理人 100096024

弁理士 柏原 三枝子

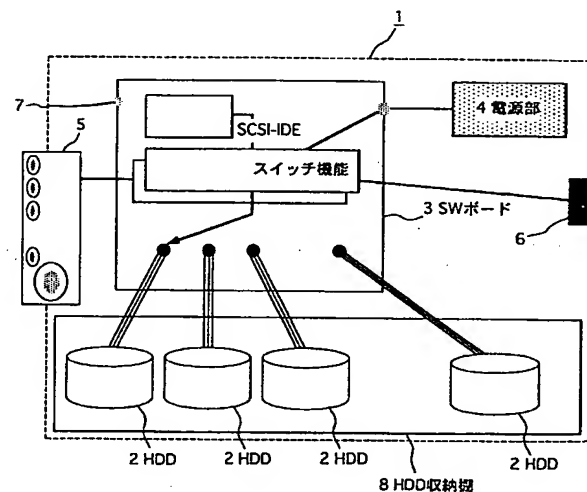
Fターム(参考) 5B065 BA01 EA33

(54)【発明の名称】 ハードディスクドライブを用いた集合型バックアップ装置

(57)【要約】

【課題】 ドライブアクセス時に特定のHDDを選択するという簡単な構成で、安価で、バックアップデータの安全性と低消費電力化を図り得る高性能のハードディスクを用いた集合型バックアップ装置を提供する。

【解決手段】 複数のハードディスクドライブ2中の特定のハードディスクドライブのみ稼働させるスイッチ手段3を設け、電源部とデータベースを一体にして各ハードディスクドライブ2に対して切り換えて接続する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数のハードディスクドライブと、当該複数のハードディスクドライブ中の特定のハードディスクドライブのみ稼働させるスイッチ手段と、を具えることを特徴とするハードディスクドライブを用いた集合型バックアップ装置。

【請求項2】 請求項1に記載のバックアップ装置において、前記スイッチ手段による各ハードディスクドライブに対する切り換えを、電源供給ラインとデータバスを一体に行うことを特徴とするハードディスクドライブを用いた集合型バックアップ装置。

【請求項3】 請求項2に記載のバックアップ装置において、前記スイッチ手段は、前記各ハードディスクドライブに対する切替を上位装置からの指示に基づいて行うことを特徴とするハードディスクドライブを用いた集合型バックアップ装置。

【請求項4】 請求項1ないし3のいずれかに記載のバックアップ装置において、前記スイッチ手段が各ハードディスクドライブの状態をモニタする機能を具えており、各ハードディスクドライブに対し定期的に異常の有無を調査することを特徴とする集合型バックアップ装置。

【請求項5】 請求項4に記載のバックアップ装置において、前記ハードディスクドライブのモニタ結果を表示するインジケータ部を具えることを特徴とするハードディスクドライブを用いた集合型バックアップ装置。

【請求項6】 請求項1ないし5のいずれかに記載のバックアップ装置において、前記スイッチ手段を同時に2台以上のハードディスクを稼働させるように構成したことを特徴とするハードディスクドライブを用いた集合型バックアップ装置。

【請求項7】 請求項1ないし6のいずれかに記載のバックアップ装置において、起動時に初期選択されるハードディスクドライブを、手動で選択可能としたことを特徴とする請求項1に記載のハードディスクドライブを用いた集合型バックアップ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、複数のハードディスクドライブ（以下、HDDという。）を用いた集合型バックアップ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のハードディスクドライブを用いたバックアップ装置には、データの信頼性を確保するためにアレイ構成としたものや、価格を安くすることを目的とし、前記アレイ構成の装置からアレイ機能を抜いて単にHDDをつなげただけの構成のものなどがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、このような従来のHDDを使用したバックアップ装置において

は、次のような課題がある。すなわち、HDDをアレイ構成とした装置では、高価なアレイボードを使用する必要があるため、また、全てのハードディスクドライブへの電源を供給するために大容量電源が必要となるため、安価にシステムを提供できない。

【0004】 一方、単にHDDを接続しているだけのシステムでは、アレイボードは不要であるが、やはり全てのドライブへ電源を供給しなくてはならないため、大容量電源が必要となる。また、アレイ構成のものに比して価格的にはやや安価にはなるものの、このシステムでは外付けHDDと変わらず、バックアップデータの安全性を確保することができない。

【0005】 本発明の目的は、ドライブアクセス時に特定のHDDを選択するという簡単な構成で、バックアップデータの安全性を確保した上で、低消費電力化を図ることができ、安価で高性能のハードディスクを用いた集合型バックアップ装置を提供することにある。すなわち、中小型PCサーバ領域において最も安価に利用できるHDDをバックアップ媒体として利用して、安価なバックアップ装置を提供しようとするものである。また、小型バックアップ領域では磁気テープよりもビット単価が安いHDDを使用してバックアップ装置を構成し、面倒さからバックアップを実行していないユーザに対し、簡易で高性能なバックアップ装置を提供しようとするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明は、複数のHDDと、複数のHDD中の特定のHDDのみ稼働させるスイッチ手段と、を具えることを特徴とする。

【0007】 このように構成することによって、搭載HDDの数に関係なく動作ドライブは基本的に一台となるので、電源容量が小さくて済み、消費電力の低減が可能となる。また、ディスクアレイ等の高価な部材を使用する必要がないので、製造コストを低減することができる。さらに、非動作ドライブはシステムから切り離され休止状態となるので、耐衝撃性が増すと共に、オペレーションミス等によるデータ喪失の危険なども避けられる。更にデータアクセス時以外にはHDDを停止させシステムから切り離すことにより、省電力と不慮のアクセスや衝撃によるデータの破壊を最小限に抑えることが出来る。

【0008】 本発明は、従来「HDDは単体ドライブではバックアップ媒体としては使えないという」通常概念に反して、単体HDDを磁気テープ媒体に見立て、これを集合型バックアップ装置のバックアップ媒体として二台以上使用し、スイッチ手段を設けて搭載した二台以上のHDD中、スイッチ手段で選択したHDDのみ稼働させるようにして、単体HDDを使用したバックアップ装置にある信頼性に関する不安をなくすようにした。

【0009】なお、スイッチ手段は、上位装置からの SCSI 信号を ATA に変換して、選択した搭載 HDD に接続する構成でもよいし、HDD として SCSI タイプを用いてもよい。

【0010】また、本発明のバックアップ装置は、前記スイッチ手段が、前記各ハードディスクドライブに対する切替を電源供給ラインとデータバスを一体にして行うことが好ましい。

【0011】なお、スイッチ手段は、HDD の状態をモニタする機能を具えており、各 HDD に対し定期的に異常の有無を調査することが好ましく、さらに、ハードディスクドライブのモニタ結果を表示するインジケータ部を具えていることが好適である。

【0012】このモニタは、基本的には一台ずつの HDD を対象として行われ、以上が有る場合にはインジケータでこれを表示してユーザに知らせるようにする。インジケータ部は、スイッチボード部が定期的にセルフテストを行なったモニタ情報をもとに、各搭載 HDD の異常の有無を表示しユーザに知らせる。

【0013】また、スイッチ手段を同時に 2 台以上のハードディスクを稼働させる構成としてもよい。この稼働させるドライブをミラー構成とすることにより、より高い信頼性を得ることができる。

【0014】また、起動時に初期選択されるハードディスクドライブを、手動で選択可能としておけば、装置に搭載した HDD のうちの任意の HDD からシステムを立ち上げることができるため、システム障害時の復旧をより簡単に行なうことができる。

【0015】

【発明の実施の形態】以下に本発明を図示の実施の形態に基づいて詳細に説明する。図 1 および図 2 は、本発明の実施の形態に係るハードディスクを用いた集合型バックアップ装置としてのハードディスクオートローダ 1 の全体の構成を示す図である。このハードディスクオートローダ 1 は、複数の HDD 2、2、・・・と、複数の HDD 2 中の特定の HDD 2 のみ稼働させるスイッチ手段としてのスイッチボード 3 と、スイッチボード 3 に接続され各 HDD 2 に電力を供給する電源部 4 と、スイッチボード 3 に接続され各 HDD 2 の状態を表示するインジケータ部 5 と、ブートドライブ設定スイッチ 6 と、上位装置からの外部信号の伝送および電力供給用のコネクタ 7 と、を具えている。

【0016】スイッチボード 3 は、オートローダ 1 に搭載した複数の HDD 2 から一つを選択して接続の切替を行い、その選択した HDD 2 にデータバスと電力を供給する。なお、この接続の切替は、上位装置からの指示により行う。

【0017】スイッチボード 3 は、以下の機能を有する。

1. 搭載 HDD の切替機能：上位装置からの指示により

HDD 2、2、・・・の電力供給、およびデータバスの接続を切り替える。

2. SCSI to ATA の変換機能：この機能は、ATA の HDD 2 を使用する場合に必要となる。

3. HDD 2 の状態の監視機能：定期的（1 回／日以上）にすべての搭載 HDD 2 が壊れていないかを調査して、フロントパネルのインジケータ部 5 にその状態を表示する。また起動時にもこの作業を行なう。なお、インジケータ部 5 はスイッチボード 3 と一体になっており、各 HDD について、その状態表示用のランプが設けられている。

4. 起動時の HDD 2 選択機能：ブートドライブ設定スイッチ 6 の設定に基づき、起動時の HDD 2 を選択する。

【0018】電源部 4 は、スイッチボード 3 を経由して、一度に一台の HDD 2 およびその基盤部（図示せず）に対し電力を供給する。

【0019】インジケータ部 5 は、スイッチボード 3 から送られてきた各搭載 HDD 2 の情報を赤／緑の LED で表示し、HDD 2 異常の有無をユーザに知らせる。

【0020】HDD 2 は、装置内の保管棚 8 に設置されており（図 2 参照）、スイッチボード 3 が選択した HDD 2 のみに電力を供給し、上位装置とのデータバスを接続して上位装置から認識されるようになる。なお保管棚 8 は、HDD 2 故障交換を行いやすいよう、メンテナンスがしやすい構造になっている。

【0021】以上詳細に本実施の形態の構成を述べたが、SCSI・ATA 変換機能や HDD 保管棚の構造などは、当業者にとってよく知られており、また本発明とは直接関係しないので、その詳細な構成の説明は省略する。なお、上記実施の形態では、スイッチボード 2 の切替は 1 対 1 として説明しているが、スイッチの切替により動作させる HDD 2 をミラー構成にするなど、同時に 2 台以上の HDD 2 を動作させるとしてもよい。また、HDD 2 については、ATA タイプではなく SCSI タイプを使用も構成できる。

【0022】次に、本発明にかかるバックアップ装置の第 2 の実施の形態について説明する。第 2 実施形態では、上記したブートドライブ設定スイッチ 6 を、「0（自動）、1～n」に設定可能とした（n は HDD の数）。このように構成することによって、「0（自動）」の設定を除いて、起動時に初期選択される HDD を手動で選択することが可能となる。これによって、オートローダ 1 に搭載した HDD のうち、任意の HDD を選んでシステムを立ち上げることができるため、システム障害時の復旧をより簡単に行なうことができる。

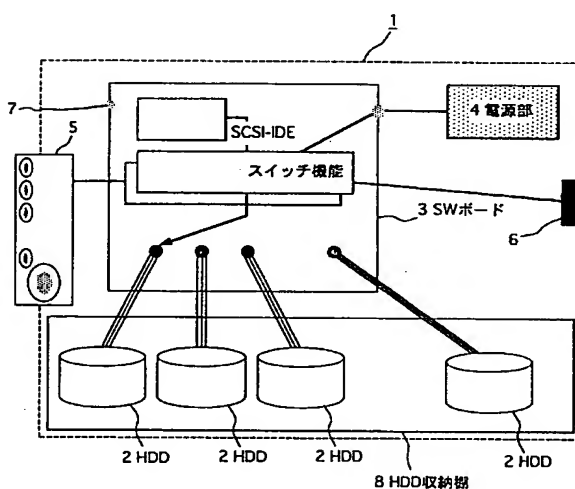
【0023】また、この機能を利用することにより、本装置をバックアップ装置として使用する以外に、各 HDD に様々なシステム環境を構築しそれらを切り替えて使用するという、マルチシステムを提供するシステムとし

【 0 0 2 4 】

【0025】第2の効果は、スイッチ手段によって特定のハードディスクドライブを選択的に稼働させることにより、搭載ハードディスクドライブの数に関係なく、小容量の電源が使えることと、消費電力が少なくできることである。

【0026】第3の効果は、使用していないハードディスクドライブは休止状態となり、耐衝撃性などの向上が期待できることである。

【图2】



Japanese Patent Office
Patent Laying-Open Gazette

Patent Laying-Open No.	2002-23965
Date of Laying-Open:	January 25, 2002
International Class(es):	G06F 3/06 12/00 12/16 G11B 20/10

(6 pages in all)

Title of the Invention:	DATA STORAGE DEVICE AND DATA BACKUP DEVICE
Patent Appln. No.	2000-211588
Filing Date:	July 12, 2000
Inventor(s):	Yoshinori KAWASAKI
Applicant(s):	SANYO ELECTRIC CO., LTD.

Comments on Japanese Patent Laying-Open No. 2002-23965

The personal computer is under control of an operating system (OS) so that data transfer is conducted smoothly between respective disc drive apparatuses, as well between each disc drive apparatus and a hard disc drive. In a personal computer equipped with a plurality of disc drives, one of the plurality of disc drive apparatuses is set as the master, functioning as the main disc drive apparatus, and the remaining disc drive apparatuses are set as slaves, functioning as sub-disc drive apparatuses for usage.

Reflecting upgrade of the OS version and the like, the master/slave setting of the disc drive apparatus is changed to carry out smoothly data transfer between each disc drive apparatus and a hard disc drive, as well as between respective disc drive apparatuses. This changeover is effected by a switch.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-23965
(P2002-23965A)

(43) 公開日 平成14年1月25日 (2002.1.25)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	ターミナル (参考)
G 0 6 F 3/06	3 0 4	G 0 6 F 3/06	3 0 4 F 5 B 0 1 8
12/00	5 3 1	12/00	5 3 1 M 5 B 0 6 5
12/16	3 1 0	12/16	3 1 0 M 5 B 0 8 2
G 1 1 B 20/10		G 1 1 B 20/10	F 5 D 0 4 4

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-211588(P2000-211588)

(22) 出願日 平成12年7月12日 (2000.7.12)

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 川崎 吉範

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三

洋電機株式会社内

(74) 代理人 100111383

弁理士 芝野 正雅

Fターム (参考) 5B018 GA04 HA03 MA12 QA20

5B065 BA01 EA35

5B082 DE06

5D044 BC01 CC04 DE49 DE50 GK11

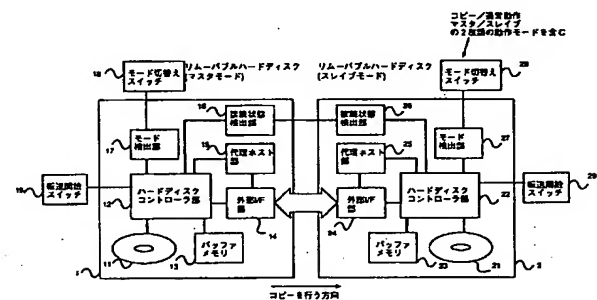
HL02 HL07 HL11

(54) 【発明の名称】 データ蓄積装置およびデータバックアップ装置

(57) 【要約】

【課題】 着脱式のハードディスク装置において、簡単にバックアップを作成することができるようにすることを目的とする。

【解決手段】 ハードディスク装置1とハードディスク装置2とを外部インタフェース部14及び24によって接続する。使用者がハードディスク装置1のモード切替スイッチ18を操作してマスターモードに設定し、また、ハードディスク装置2のモード切替スイッチ28を操作してスレーブモードに設定する。そして、ハードディスク装置1とハードディスク装置2とを各外部インタフェース部にて接続すると、これを各接続状態検出部が検出するため、双方のハードディスク装置がコピーモードに設定される。さらに、使用者により転送開始スイッチ19が操作されると、ハードディスク装置1からハードディスク装置2へデータが転送されてコピーが行われる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データ転送元とデータ転送先とを切り替える切り替え手段とを備えたことを特徴とするデータ蓄積装置。

【請求項 2】 データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、転送元と転送先とを切り替える切り替え手段と、前記インタフェース手段の接続状態を検出する接続状態検出手段とを備えたことを特徴とするデータ蓄積装置。

【請求項 3】 データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データの書き込みを許可または不許可に設定するデータ書き込み設定手段とを備えたことを特徴とするデータ蓄積装置。

【請求項 4】 前記インタフェース手段によって、他のデータ蓄積装置を接続することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 記載のデータ蓄積装置。

【請求項 5】 前記接続状態検出手段によって、他のデータ蓄積装置との接続状態を検出することを特徴とする請求項 2 記載のデータ蓄積装置。

【請求項 6】 前記データ書き込み設定手段によって、データ転送元とデータ転送先とを切り替えることを特徴とする請求項 3 記載のデータ蓄積装置。

【請求項 7】 データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データ転送元とデータ転送先とを切り替えるデータ転送切り替え手段とを備えた第 1 のデータ蓄積装置と、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データ転送元とデータ転送先とを切り替えるデータ転送切り替え手段とを備えた第 2 のデータ蓄積装置とを備え、前記第 1 のデータ蓄積装置と第 2 のデータ蓄積装置とが、前記各インタフェース手段によって接続されていることを特徴とするデータバックアップ装置。

【請求項 8】 前記データ転送切り替え手段によってデータ転送元に設定されたデータ蓄積装置から前記データ転送切り替え手段によってデータ転送先に設定されたデータ蓄積装置へデータを転送することを特徴とする請求項 7 記載のデータバックアップ装置。

【請求項 9】 データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、転送元と転送先とを切り替えるデータ転送切り替え手段と、前記インタフェース手段の接続状態を検出する接続状態検出手段とを備えた第 1 のデータ蓄積装置と、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、転送元と転送先とを切り替えるデータ転送切り替え手段と、前記インタフェース手段の接続状態を検出する接続状態検出手段とを備えた第 2 のデータ蓄積装置とを備え、前記第 1 のデータ蓄積装置と第 2 のデータ蓄積装置とが、前記各インタフェース手段によって接続されている

ことを特徴とするデータバックアップ装置。

【請求項 10】 前記接続状態検出手段によって、通常の動作モードとデータ蓄積装置間のデータ転送モードとが切り替えられることを特徴とする請求項 9 記載のデータバックアップ装置。

【請求項 11】 データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データの書き込みを許可または不許可に設定するデータ書き込み設定手段とを備えた第 1 のデータ蓄積装置と、

データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データの書き込みを許可または不許可に設定するデータ書き込み設定手段とを備えた第 2 のデータ蓄積装置とを備え、

前記第 1 のデータ蓄積装置と第 2 のデータ蓄積装置とが、前記各インタフェース手段によって接続されていることを特徴とするデータバックアップ装置。たことを特徴とするデータバックアップ装置。

【請求項 12】 前記データ書き込み設定手段によってデータの書き込みが不許可に設定されているデータ蓄積装置から前記データ書き込み設定手段によってデータの書き込みが許可に設定されているデータ蓄積装置へデータが転送されることを特徴とする請求項 11 記載のデータバックアップ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ハードディスク等のデータ蓄積装置及びそのバックアップ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、テレビジョン信号等のデータの記録再生装置として、光磁気記録媒体、ハードディスク等のランダムアクセス可能な記録媒体を用いた記録再生装置が提案されている。また、ハードディスクドライブのような記録装置は大容量化が進んでいるが、その記憶容量は有限であることに変わりはない。そこで、カセットテープやビデオテープのようにハードディスクドライブについても脱着可能とし、ディスクフル状態になった場合に交換可能とすることが望ましい。このようにすれば、ユーザは従来のビデオテープレコーダやカセットテープレコーダのように、用途に応じて記録媒体部分のみあるいは記録媒体に関連する装置の一部分のみを複数用意しておき、用途に応じて使い分けるといったような使用をすることができる。ユーザにとっては、ビデオテープレコーダのような感覚で使えるためわかりやすいものとなる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記のように着脱自在なハードディスク装置を用いた記録再生装置において、ハードディスク装置に記録されたデータを他のハードディスク装置にコピーしてバックアップを作成する場合、記録再生装置に少なくとも 2 台のハードディスク装置が

装着でき、装着された 2 台のハードディスク装置間でデータの転送ができるように設計されていなければならない。しかしながら、一般家庭において、バックアップの作成はあまり頻繁に行うものではなく、そのために記録再生装置をそのように設計することはコストアップにつながるという問題がある。

【0004】また、たとえ上記のように 2 台のハードディスク装置が装着できるように設計していても、装着された一方のハードディスク装置が記録・再生のために使用されていた場合、バックアップの作成は物理的に不可

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するため、本発明のデータ蓄積装置は、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データ転送元とデータ転送先とを切り替える切り替え手段とを備えたことを特徴とする。また、本発明のデータ蓄積装置は、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、転送元と転送先とを切り替える切り替え手段と、前記インタフェース手段の接続状態を検出する接続状態検出手段とを備えたことを特徴とする。

【0006】さらに、本発明のデータ蓄積装置は、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データの書き込みを許可または不許可に設定するデータ書き込み設定手段とを備えたことを特徴とする。また、本発明のデータ蓄積装置においては、前記インタフェース手段によって、他のデータ蓄積装置を接続することを特徴とする。

【0007】また、本発明のデータ蓄積装置においては、前記接続状態検出手段によって、他のデータ蓄積装置との接続状態を検出することを特徴とする。また、本発明のデータ蓄積装置においては、前記データ書き込み設定手段によって、データ転送元とデータ転送先とを切り替えることを特徴とする。さらに、本発明では、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データ転送元とデータ転送先とを切り替えるデータ転送切り替え手段とを備えた第 1 のデータ蓄積装置と、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データ転送元とデータ転送先とを切り替えるデータ転送切り替え手段とを備えた第 2 のデータ蓄積装置とを備え、前記第 1 のデータ蓄積装置と第 2 のデータ蓄積装置とが、前記各インタフェース手段によって接続されていることを特徴とする。また、本発明のデータバックアップ装置においては、前記データ転送切り替え手段によってデータ転送元に設定されたデータ蓄積装置から前記データ転送切り替え手段によってデータ転送先に設定されたデータ蓄積装置へデータを転送することを特徴とする。

【0008】また、本発明は、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、転送元と転送先とを切り替えるデータ転送切り替え手段と、前記インタフェース手段の接続状態を検出する接続状態検出手段とを備えた第 1 のデータ蓄積装置と、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、転送元と転送先とを切り替えるデータ転送切り替え手段と、前記インタフェース手段の接続状態を検出する接続状態検出手段とを備えた第 2 のデータ蓄積装置とを備え、前記第 1 のデータ蓄積装置と第 2 のデータ蓄積装置とが、前記各インタフェース手段によって接続されていることを特徴とする。

【0009】また、本発明においては、前記接続状態検出手段によって、通常の動作モードとデータ蓄積装置間のデータ転送モードとが切り替えられることを特徴とする。さらに、本発明は、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データの書き込みを許可または不許可に設定するデータ書き込み設定手段とを備えた第 1 のデータ蓄積装置と、データ蓄積手段と、接続用のインタフェース手段と、データの書き込みを許可または不許可に設定するデータ書き込み設定手段とを備えた第 2 のデータ蓄積装置とを備え、前記第 1 のデータ蓄積装置と第 2 のデータ蓄積装置とが、前記各インタフェース手段によって接続されていることを特徴とする。

【0010】また、本発明においては、前記データ書き込み設定手段によってデータの書き込みが不許可に設定されているデータ蓄積装置から前記データ書き込み設定手段によってデータの書き込みが許可に設定されているデータ蓄積装置へデータが転送されることを特徴とする。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照しつつ、本発明の実施形態について説明する。図 1 は、本発明のデータ蓄積装置たるハードディスク装置の構成を示している。本発明では、ハードディスク装置同士を接続し、この状態で相互にデータ転送できるように構成した点に特徴がある。

【0012】図 1 において、1 は転送元となるハードディスク装置、2 は転送先となるハードディスク装置であり、この例ではハードディスク装置 1 よりハードディスク装置 2 に対してバックアップを行う。ハードディスク装置 1 において、11 はディスク部、12 はディスク部 11 へのデータの書き込み／読み出しを制御するハードディスクコントローラ部、13 はハードディスクコントローラ部 12 がデータを書き込み／読み出しする際に利用するバッファメモリ、14 は他のハードディスク装置と接続するための外部インタフェース部、15 は代理ホスト部であり、ハードディスク装置が転送元となるマスターモード（詳細は後述する）の時にデータの転送を制御する（転送先のハードディスク装置に対して WRITE 命令を発行することができる）。16 は接続状態検

出部であり、ハードディスク装置が他のハードディスク装置に接続されているか否かを検出する。17はモード検出部であり、モード切替スイッチ18によっていずれのモードに設定されているかを検出する。19はデータの転送を開始させるための転送開始スイッチである。

【0013】また、ハードディスク装置2において、21はディスク部、22はディスク部21へのデータの書き込み／読み出しを制御するハードディスクコントローラ部、23はハードディスクコントローラ部22がデータを書き込み／読み出しする際に利用するバッファメモリ、24は他のハードディスク装置と接続するための外部インタフェース部、25は代理ホスト部であり、ハードディスク装置が転送元となるマスターモード（詳細は後述する）の時にデータの転送を制御する。26は接続状態検出部であり、ハードディスク装置が他のハードディスク装置に接続されているか否かを検出する。27はモード検出部であり、モード切替スイッチ28によっていずれのモードに設定されているかを検出する。29はデータの転送を開始させるための転送開始スイッチである。

【0014】ここで、マスター／スレブモードについて説明すると、ハードディスク装置はモード切替スイッチ18およびモード切替スイッチ28の設定により、ハードディスク装置がデータの転送元となるマスターモードと、逆に接続された他のハードディスク装置からデータを転送されるスレブモードとに切り替えられる。従って、図1に示した構成では、ハードディスク装置1がマスターモードに設定されており、ハードディスク装置2がスレブモードに設定されている。尚、各モード切替スイッチの設定を変更することにより、ハードディスク装置2からハードディスク装置1へデータを転送してバックアップを作成するように変更できることも言うまでもない。

【0015】また、前記接続状態検出部16及び接続状態検出部26により、ハードディスク装置が記録再生装置に接続されている状態（通常動作モードとする）か、あるいは他のハードディスク装置と接続されている状態（コピーモードとする）とを判別するのに用いられる。尚、前記モード切替スイッチ18またはモード切替スイッチ28の設定によりマスターモードに設定されたハードディスク装置と、モード切替スイッチ18またはモード切替スイッチ28の設定によりスレブモードに設定されたハードディスク装置との間でのみ、接続することが可能となるような機構を設ければ、接続状態検出部を省くことができる。

【0016】さらに、ハードディスク装置にフロッピー（登録商標）ディスク等に設けられているような書き込み可能／書き込み禁止タブを設け、書き込み禁止に設定したハードディスク装置がマスターモード、書き込み可能に設定したハードディスク装置がスレブモードに自

動的に設定されるように構成してもよい。図2にフローチャートを用いて本発明のハードディスク装置の動作を説明する。まず、使用者がハードディスク装置1のモード切替スイッチ18を操作してマスターモードに設定し、また、ハードディスク装置2のモード切替スイッチ28を操作してスレブモードに設定する。

【0017】その後、ハードディスク装置1とハードディスク装置2とを各外部インタフェース部にて接続する。これにより、接続状態検出部16及び接続状態検出部26が他のハードディスク装置が接続されたことを検出する（S1）。その後、モード状態検出部17及びモード状態検出部27がモード切替スイッチ18及びモード切替スイッチ28によってマスターモードに設定されているかスレブモードに設定されているかを認識する（S2）。この例では、ハードディスク装置1がマスターモードに設定され、ハードディスク装置2がスレブモードに設定されているので、ハードディスク装置1は転送開始スイッチ19の操作待ちとなり（S3）、一方、ハードディスク装置2はデータが転送されてくるのを待つ（S5）。

【0018】ハードディスク装置1の転送開始スイッチ19が操作されるとデータの転送が開始され、データの転送が終了すると（S4、S6）バックアップが完了する。尚、前記S1において、他のハードディスク装置の接続が検出されていない状態では通常モードで動作する。データの転送は、一方のハードディスク装置内の全データを他方のハードディスク装置へ転送する（所謂フルコピー）のが簡単であるが、ハードディスクの容量が大きくなると転送に多くの時間がかかることになる。また、転送元のハードディスク装置に未記録領域が多い場合には、空のデータを多く転送することになり、非効率的である。そこで、ハードディスク装置にファイル管理プログラムを搭載し、ファイル単位等でコピーするデータを選択して転送できるように構成すれば効率的である。

【0019】ところで、ハードディスク装置を駆動するには電源が必要となるが、このために各ハードディスク装置に電源供給のための端子を設ける、あるいは電磁誘導式のように非接触の電源供給とすることも考えられる。また、電源の供給は、2台のハードディスク装置を電源に接続しなくとも、いずれか一方のハードディスク装置にのみ電源供給し、他方のハードディスク装置へは一方のハードディスク装置（の外部インタフェース部）を介して電源供給するように構成してもよい。さらに、小型のバッテリー装置をハードディスク装置に接続して電源供給するように構成してもよい。

【0020】また、データ転送中であることを明確に示すために、ハードディスクにLED表示装置等の表示装置を設け、現在、データの転送中であることや、データの転送が終了したことを使用者に通知するように構成す

る。また、ハードディスク装置は振動や衝撃に弱いいため、データの転送が完了すると自動的に回転が停止するように構成すると安全性を向上させることができる。

【0021】

【発明の効果】以上詳述した如く、本発明に依れば、データ蓄積装置同士を接続して簡単にデータのバックアップを作成することができる。

【図面の簡単な説明】

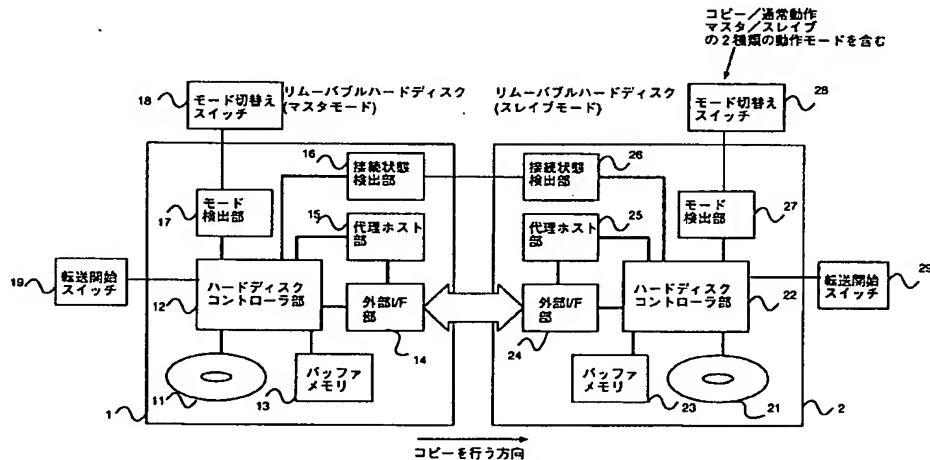
【図1】本発明のハードディスク装置の構成を示す図である。

【図2】本発明の動作を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

- 1, 2 ハードディスク装置
- 11, 21 ディスク部
- 12, 22 ハードディスクコントローラ部
- 13, 23 バッファメモリ
- 14, 24 外部インタフェース部
- 15, 25 代理ホスト部
- 16, 26 接続状態検出部
- 17, 27 モード検出部
- 18, 28 モード切替スイッチ
- 19, 29 転送開始スイッチ

【図1】



【図 2】

